

うが研究の公平を失して居るに違いないことである。文學士倉橋惣三氏の談話なりとて毎電の報ずる所に因つても次の様なことがある。(多少無關係の處もあるが第七項に注意して讀まれんことを)

### 大道玩具の改良

○嬰兒が何でも物を口に入れるのは、生れて直ぐ乳房を吸ふので、唇の感覚が最もよく發達して居るからである。故に此時代の玩具としてはおしやぶりがあつた。

○グロースといふ玩具學者は「大人が煙草を吸ふのも畢竟パイプを玩具にするのだ」と言つて居るが、成る程パイプは、嬰兒のおしやぶりに當る。

○おしやぶりの時代からがらに移つる。此ががらには有史以前からある玩具で、今日埃及の古墳を發掘すれば、貝殻を合はして中に砂を入れて造つたからがらが見出ださる。

○がらからは嬰兒の最も好むもの、之を握つて振れば鳴る。即ち握るといふ觸覚、音を聞くといふ聽覚形や色をおもしろがる視覚、此三者が凡て此一つの玩具に備はつて居るので、世界各國之れのない所はない。併し之が果して理想的のものであらうか、此上發達の餘地はないであらうか。

○近頃三越の玩具陳列會と云ひ、來春開かるべき農商會館の玩具展覽會と云ひ、玩具に對する研究の漸く盛んになりつゝあるのは、喜ばしい現象であるが併し所謂玩具改良論者の多くは、四五歳位の稍發達した子供を標準とするので、一二歳以下の嬰兒に持たすべき物に就て餘り注意を拂はないのは遺憾に堪へない。○故に子供の想像力や注意力、模倣性、智識等を養成すべき精巧なる玩具は出来るが、一二歳以下の感覚を養成すべき玩具は、矢張り

昔の儘である。

○又値段の高い立派な玩具に就ては、世人も注意するけれども、彼の大道具と稱する三四錢止まりの平民的玩具に對しては殆んど顧みざる者がない。而かも兒童教育の上から言へば、此大道具こそ、大なる影響を及ぼすもので、此方の改良が急務である。

○何故なれば玩具屋にある高價な玩具は必ず、父兄が選擇して貰ひ與へるから、害がないけれども、大道玩具は多くは子供が自身で買ふので、萬一夫が悪いものであると、意外の害を齎らすのである。

○殊に大道玩具には廢物利用のものが多く、縱令構造の上は何等の非難なしとするも、中には種々の惡感化を與ふるものがあるから私は益々此方の改良の必要を認める。誠にも尤もな注意で實地教育家の大に注意す可き所である。

## 子供と活動寫眞

文學士 倉橋惣三

△活動寫眞は善く使へば、子供の娛樂として至極上乘なものである。併し興業の活動寫眞に就ては悉く賛成と云ふ譯には行かぬ。而も子供は活動寫眞の名に誘はれて何でも彼でも見に行きたがる

又日頃注意深き家庭でも活動寫眞と云へば何の差別もなく許すのが多い。其處で色々の弊害も起つて来る。

△其第一は伴ひ易い夜更しの弊である。之は活動寫眞に限つたことでないが、子供の娛樂に夜の間を使ふのは考へ物である。大人でも寄席芝居に夜を更した翌朝は飽度氣が鈍いものである。況てや規則正しい就眠時間を要する子供の身體には特に此夜更しの害が激しい。休日の前夜ならばと云ふ人もあるか知らないが、其とても望ましいことではない。一體娛樂の爲に時間の規定を破ると云ふ其事が既に善くない習慣を爲すのである。最も活動寫眞は大抵晝夜二回になつてゐるが、其の夜の部までが多數は子供のお客さんだから困る。△弊害の第二は觀覧料の廉い所から其樂みに淫し易いことである。内の兒は活動道樂でと笑ひながら話して居るは様方も少くないが、これ實は笑ひ筋ではない。此の所謂道樂の爲に子供の頭は少からず疲らされる。何の娛樂でも多少疲れないものはないが、活動寫眞は殊に甚だしい。只さへ場内

の空氣の悪い處へ、強い動搖する電氣の光線を暗い中で見詰めるのだから、生理的に眼と神經が疲れて来る。殊に此頃では度々と競つて長尺ものを映し、其れも多くは冒險とか悲劇とか、或は滑稽物にしても、子供に取つては随分複雑なことが多いので、心の疲れも、通りでない。其もたさかならば兎も角、一月何度一週幾度と云ふ様になつては其疲れも次第に大きく目に見えて来る。斯う云ふ子供が肝心の學校ではボカンとして居たり欠伸をしたりするのである。但し之とても亦活動寫眞に限つたことでないが、例の面白くて廉い所から他の娛樂よりも淫し易い危険が多いのである。△第三には又活動寫眞の持前として、其興味餘りに忙しい變化に偏する處から始終斯う云ふ印象に慣れた子供には一つの物に靜かな長い注意を凝らすと云ふことが困難になる處がある。昔の落付いた影繪などに較べると、面白いだけに其感しさが亦甚だしい。只さへ氣の忙しい都會生活をしゐてる子供に、更に斯う云ふ同弊の伴ひ易い娛樂

に耽らすのは、注意を要することである。影絵から幻燈、幻燈から活動寫真と、一方には子供の心の活動の増に從つて、其の娯樂の活動性も増て來るといふ理合もあるのだらうが、其の弊も亦加乘することは避ける様にしなければならぬ。

△第四に尙一層困ることは、活動寫真の材料である。素より商賣物の興業に向つて、存分な注文も無理な話であるが、中には随分いゝものもあるに、中には亦顔を聲めさす様なのが少くない。其も甚だしいのは警察の取締で嚴重に監督せられるのであるけれども、そこ迄に至らない處で、少くも甚だしく非子供向と思はれるものが屢ある。實際生きた人間には人の前で演じ兼ねる様な仕草でも、寫し繪といふので無遠慮に現れて來る。全體活動寫真といふものが、種々雜多のことを自在に混合せ作り上げて何でも目先の變るやう見る人の意想外に出るやうと、幾らでも奇に馳せ、普通に遠ざかつた山澤山の材料を拵へることの出來る處から、事々に並外れの好奇心を刺戟して居る。活動寫真の長所も此處にあれば又短所（子供の爲

に）も茲に生ずるので、單に卑猥に類したことの多いといはず、下等な滑稽や露骨な殘酷、又は奇想天外の離れ技などいふものが、在來の芝居、曲藝などよりも、づつと飛び離れたものが多い。そこで斯いふものを始終楽しんで居て、好奇心の過度の満足に慣れて來ると、普通のことでは面白くなくなつて來る。それが嵩すれば興味といふものが荒んで來る。眞面目の課業が厭になる。

△殊に此頃の流行が、殆ど皆と云つて善い位芝居種になつて來て、鳴り物入、聲色入と云ふ様な大仕掛は活動寫真の興業としては發達であるか知れないが、益非子供向のものになつて終つた。其も一時はお伽芝居物などがあつて、之れでこそ活動寫真の善用だと至極賛成に思つたのであつたが、此頃では其類のものも頓と行はれない様だ。元來子供に普通の芝居を見せる可否に就ては種々のことをいふ人もあるやうだが、少くも非子供向きと云ふ點に於て不賛成を唱へなければならぬ。即ち活動寫真に寫し出す芝居にしても其作の巧拙狂言の良否は先づ第二の問題として、根が大人の成

熟したる理路情合を基にして出来て居る大人向のものの子供の心に適當しやう筈はないのである。△假令ば例の毎々御喝采の金色夜叉熱海的一幕或は不如歸の返子海岸の場と云つた様なものは子供が之を見たとして直接に悪いことを覺るといふのでは無いが、併し其筋合が全然子供経験や感情に相應したものではない。従つて其眞の意味合が子供に分らう筈もなく分つて呉る様では却て困るのである。而も斯う云ふものを見慣て居ると其が亦面白くなつて、特に女の子などは厭に一部分だけ大人びたませだ感情が養はれる。又一方には斯う云ふ類の強い刺戟によつて、年齢不相應の経験を覺え娛樂を索める癖がつくと、自然的の子供らしい遊戯娛樂と云ふものに興味を失つて來て子供の心の自然なる發達に取返し付かぬ大きな害を與へるのである。之れこそ實に憂へねばならない。況してや筋の下等な脚本などを見て、色々下らないことを覺えるに至つては其の害はいふ迄もない處で、此の芝居と云ふものが今迄の様に大きい劇場の中でのみ演じられて、高い觀覽料も要るし、

子供などの少くも單獨で行く處でないことに限られて居る間は此の害が比較的にかつたが、安い觀覽料と短い時間とお子供歡迎の呼聲とで、是等の害を子供の社會に撒に近づけたといふ點は、活動寫眞の流行が齎した大いなる惡結果と云はなければならぬ。△扱て右の様に述べて來ると、活動寫眞が全く惡いものになつて仕舞ふ様であるが、勿論左様な譯ではない。つまり良く用ひれば子供の爲に益の大きい丈け其丈けに、斯様な種々の弊害も伴ひ易いと云ふことを考へて見た迄のことである。そこで實際上の問題としては要するに誰も氣のついて居る次の三つのことになる。△即ち先づ興行者の方への注意としては、場内の衛生上の諸設備を完全にすることは勿論、是非寫眞の材料の運び方に教育的(といふと堅苦しさうだが勿論娛樂たる範圍の内)で注意を加へて貰ひ度いこと。若しさう一概にも出來ないと云ふことなら大人相手のもと、子供相手のもとを別々に拵へて貰ひ度いこと。

△次に家庭の方への注文としては、第一子供の活動寫眞道樂を過度ならしめぬ様に制すること。第二、夜の活動寫眞へやるにしても、娛樂の爲に規定の就眠時間を破る様のことにはさせぬこと。第三子供を獨りでやる時は勿論、或ば自分が連れて行く時にでも、先づ其の活動寫眞が如何なる材料のものかと云ふことを善く調べてからの後にすべきこと。大人向と子供向との別が出来た時に、自分が子供の方のお相伴はしても、子供に大人向の方のお伴をさせぬこと。最も之は單に活動寫眞に限らない。一獨の遊覽が皆さうである。乳香兒を抱えて人込雜沓の中へ物見に行く若いお母さん、三四歳の子供を連れて寄席などへ来て居る人、其の他此の類のことは往々にして見受けるが甚だ怪しからぬことである。

△尙又當局の取締の上に於て、從來の諸種の注意の他、總ての娛樂的興業物、殊に見物人の種類の不定に廣い此の活動寫眞の如きものに對して、子供向と否との別を嚴重に指定なり制限なりすることは出来ないことであらうか。何しろ、活動寫眞

の如き比較的新しい而も社會的關係の甚だ小ならぬ問題に對しては教育的又社會的等の諸方面から充分研究する必要があると思ふのである。(報知)

## 家畜の馴らし方を

見て

芙蓉子

十七世紀の中葉に出でたる教育改革家の急先鋒たる獨乙の「コメニユース」と云ふ人は當時の不合理なる教育の方法を痛罵して自然は能く萬物を化育する、人間も此自然界に生活する以上は自然の進行を觀、自然の活動を察して、其處に人類教育の方法を見出さなければならぬと絶叫したそうですが全く鳥や獸の生ひ立ちを察して見ても心ある人には如何に人類の子供は教育せらる可きかは判るまで御座います。注意した人は犬や猫を馴らすに於ては如何に其性能を察して之をしつける方